

振り付け・演出、湯浅より、公演直前コメント、その7 締めくくり

公演も間際となりました。このコメントが最後になると思います。皆様、お付き合い有難うございました。

今までにお伝えしたダンスの他、書ききれなかったダンスの中には、ゆったりと穏やかなダンスや、ちょっとコミカルなダンスもあり、一曲ずつが全く異なる表情を持っています。どれも、音楽を聴いていると、構想がひらめき、ステップや動きが自然に発想されました。振り付けをしていると、パーセルから、「ここは、こうやって欲しい。」「ここは、こういう感じでお願い。」なんて言われているような気がするのです。一緒に仕事をしているような、それはもうわくわくと嬉しい時間でした。今、私は何だかおこがましくも、パーセルという人を仕事のパートナーとして、深く理解したような気持ちになっています。

当時、この劇作品を企画し、パーセルに依頼したのも、実はロンドンで活躍する振り付け家でした。振り付け家がいかにかに良い音楽を求めているか、“良い振り付けをするには、良い音楽がなくては始まらない“、という事がわかります。優れた音楽は、いつの世も、万人の心を癒し、豊かにし、想像力をかき立て、前進する力を与えるのです。

皆様も、パーセルの音楽に触れるたび、癒され、明日を進む新たな力を得られますよう、心よりお祈りし、このコラムを終わろうと思います。

さあ、私たちの「アーサー王」、発進です！！ 乞う、ご期待！！